

## 区の評価及び意見について

【生野区】 (受託者: コリアジャパンセンター、関西国際交流団体協議会、大阪NPOセンター 共同体)

## 1 地域活動協議会の状況についての分析(年度当初)

項目	受託者の分析に対する評価及び意見
「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組」(イメージ) (1)「地域課題への取組」についての分析	地域活動協議会の設立を急いだ面もあり、連合振興町会の延長線上の活動が多く、地域課題とニーズにマッチしない事業があることは否めない。 また、役員改選により地域活動協議会の意義など引継が十分でない地域もあることから、地域の将来像の共有と地域活動協議会の仕組みを使い事業展開する意義が十分に浸透するよう地道に浸透させていくことは重要である。
(2)「つながりの拡充」についての分析	「まちカフェ」の開催等新たな担い手の発掘に向けての支援は順調に進んでいると感じているが、地域活動協議会が担い手不足を訴える一方で、地域外からの受け入れを拒む傾向があるのは確かである。そういった地域の意識改革に係る支援にも取り組んでいただきたい。
(3)「組織運営」についての分析	広報を中心に、概ね自律的な運営ができてきているように感じるが、一部の地域活動協議会においては、未だ支援なしでは運営が難しい状況である。そのような地域活動協議会へは、会計の委託等、別の支援方策も検討していただきたい。 また、現在自律的な運営ができてきている地域活動協議会においても、ごく一部の人たちだけで支えているようなところもあり、今後の安定的な運営のためには世代間継承を意識した支援も必要である。
(4)「区独自取組」についての分析 (区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定したもの)	分析にあるとおり、負担感を感じてる者も多く、まずは地域活動協議会間で連携することの意義について、再度確認し、引き続き取り組んでいくことが重要である。

## 2 事業の実施内容(支援策(取組)の内容)

項目	提案内容に対する評価及び意見
「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組」(イメージ) (1)「地域課題への取組」にかかる支援の提案内容	従来までの支援ではなかったバラエティーに富んだメニューを実施しており、当初は地域の方々のとまどいも一部見られたが、少しずつではあるが地域の方自らが興味ややりがいを持って中間支援組織と一緒に取り組み始めているように感じる。 支援にはある程度の期間を要すると考えているので、これからも工夫を凝らしながら、粘り強く支援を続けていってほしい。
(2)「つながりの拡充」にかかる支援の提案内容	
(3)「組織運営」にかかる支援の提案内容	平成28年7月実施の会計勉強会では、会計事務をしている者同士で自由な意見交換をし、解決につなげていくという、今までにない参加型のスタイルをとることで、担当者の本音や実情を知ることができ、今後の支援への参考にもなった。今後も、共同体としての強みを活かし、新たな発想での支援を引き続き実施していただきたい。
(4)「区独自取組」にかかる支援の提案内容 (区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定したもの)	「動画サイト」を使った地域活動の紹介により、取り組み内容や実績がイメージしやすくなり、地域のモチベーションのアップにつながった。 また、中間支援組織が会議進行のファシリテートをすることで、参加者の本音がうかがえるようになってきたことから、そこから課題を見つけ、有効な支援策につなげていただきたい。

## 3 事業の実施体制等

項目	提案内容に対する評価及び意見
(1)自由提案による地域支援の提案内容 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	地域活動協議会の真の自律をめざして、場合によっては厳しい対応をしながらも、うまく支援をしてくれていると感じている。

(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる提案内容	まちづくり支援員が地域に溶け込み活動できており、生野区を良くしていきたいという思いがとても伝わってくることから、地域の方から概ね好意的に受け入れてもらっていると感じている。 今後、外部アドバイザー等も絡めたバラエティに富んだ支援が増えることを期待する。
(2-2)フォロー(バックアップ)体制等にかかる提案内容	共同体からのフォローだけではなく、まちづくり支援員それぞれの個性も活かして支援員間でフォローしながら、うまく支援をしてもらっていると感じている。 共同体ともさらなる連携をされ、より効果的な支援策を検討していただきたい。
(3)区のマネジメントに対応した取組にかかる提案内容	豊富なアイデアや経験を活かして、「事業支援」を中心に支援いただいております、区役所では支援が難しい面をうまく支援いただいております。

## 4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)(5つ以内)

支援策(取組)名称	支援策(取組)に対する評価及び意見
事業企画・運営に関する支援	地域との対話を通じて、新たなアイデア等を提案し、うまく支援を進めてもらっている。 地域活動協議会が補助金情報以外の自主財源を獲得する方法や他地域の活用事例についても、積極的に提供いただきたい。
生野区の未来を想う交流会「まちカフェ」開催	「まちカフェ」をきっかけに、若い方が中心となって地域課題を見つけ、それに向けた対応策を考える等、新たな担い手の発掘はできつつあるが、その人たちをうまく地域活動協議会に取り込めるよう、引き続きの支援をお願いしたい。
子どもの居場所づくり事業	7月に実施した「こどもおたのしみDAY」は大変好評であり、今後実施予定の「外国籍のお母さん、お父さんの子育て支援のための場づくり」等、子どもの居場所づくりに関するさらなる支援に期待したい。
SNS・動画等を利用した地域情報発信支援	中間支援組織の働きかけにより全地域でSNSにより情報発信していることは評価できる。今後は地域の方でもスマホ等で簡単に動画を撮影・編集できる講座などを開催し、効果的に情報発信できるよう引き続き支援していただきたい。
ニュースレター「生野区まちづくり便り」発行	メッセージから生野区への思いが伝わってくるものであり、中間支援組織のフェイスブック等に掲載する等、中間支援組織のまちづくりに関するメッセージをもっと多くの人に知ってもらえる方法を検討いただきたい。

## 5 現時点での支援の実施状況

項目	評価及び意見
(1)現時点での支援の実施状況(目標の進捗状況)	中間支援組織の受託者が変わったことにより、当初は地域の方々も様子を見ていた面があるが、従来の支援とはまた違った角度からのアプローチが増えたことで、少しずつ前向きに地域の方々が変わってきているように感じる。特に、中間支援組織の支援があくまで地域活動協議会の自律のための支援であるにも関わらず、単なる事務のお手伝いをしてくれるものを思っていた方々も少なからずおり、そうではないことをきちんと伝えた上で支援しているため、真の自律に向けた支援がなされていると感じている。 今後の支援をしていくにあたって、まずは地域の方々の意識改革が最重要であり、そういった面からアプローチできているのは評価できる。
(2)上記を受けた、年度後半の支援についての考え	地域の方々の意識も徐々に変わってきていると感じており、年度後半はイベントの実施等具体的な支援を積極的に進めてもらいたい。 共同体全体で、年度前半の振り返りし、反省を踏まえた上で後半の取り組みを検討する等、今後も高いモチベーションを維持し、豊富なアイデアでまちづくりの支援を続けてもらいたい。